



第1節 市民の意識

市民意識は、平成19年1月に無作為に抽出した3,000人(有効回答1,300人、有効回答率43.3%)の市民を対象に実施した市民意識調査の一部です。

回答者の属性

性別	男	548	42.2
	女	658	50.6
	不明	94	7.2
	合計	1,300	100.0
年齢	16~19歳	88	6.8
	20~29歳	142	10.9
	30~39歳	184	14.2
	40~49歳	182	14.0
	50~59歳	357	27.5
	60歳以上	322	24.8
	不明	25	1.9
	合計	1,300	100.0

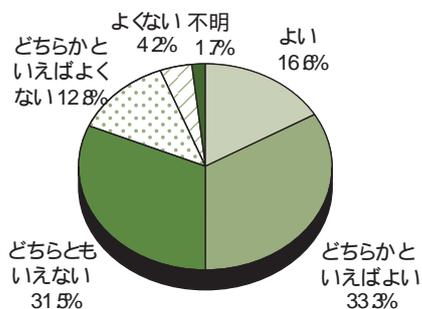
校区	宮田南小学校区	259	19.9
	宮田北小学校区	153	11.8
	宮田小学校区	144	11.1
	宮田東小学校区	105	8.1
	笠松小学校区	119	9.2
	若宮小学校区	216	16.6
	若宮西小学校区	64	4.9
	吉川小学校区	108	8.3
	山口小学校区	71	5.5
	若宮南小学校区	14	1.1
	不明	47	3.6
	合計	1,300	100.0

左欄 票数、右欄 割合

住み心地

私たちのまちの住み心地に対して「よい」、「どちらかといえばよい」と感じている人が、合わせて49.9%となっています。このように住み心地について良いという評価が、回答者の半数にも満たない状況となっています。

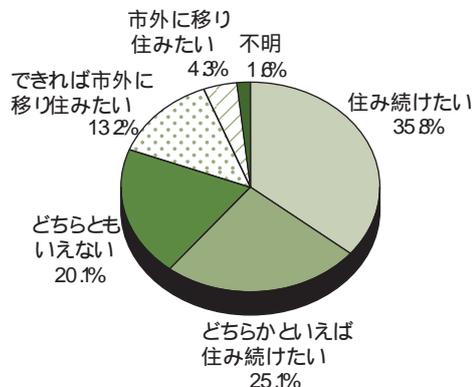
住み心地



定住意向

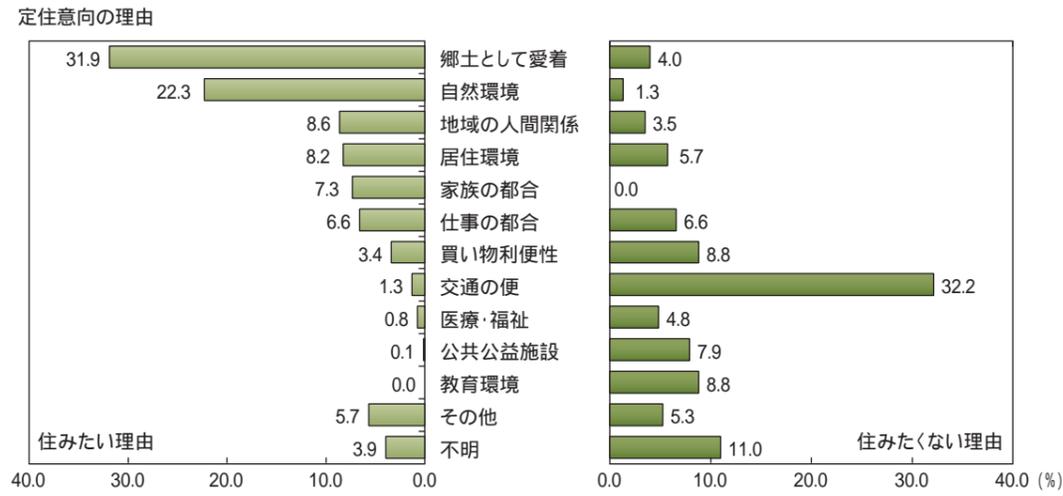
今後も私たちのまちに「住み続けたい」、「どちらかといえば住み続けたい」と考えている人は、合わせて60.9%となっています。

定住意向



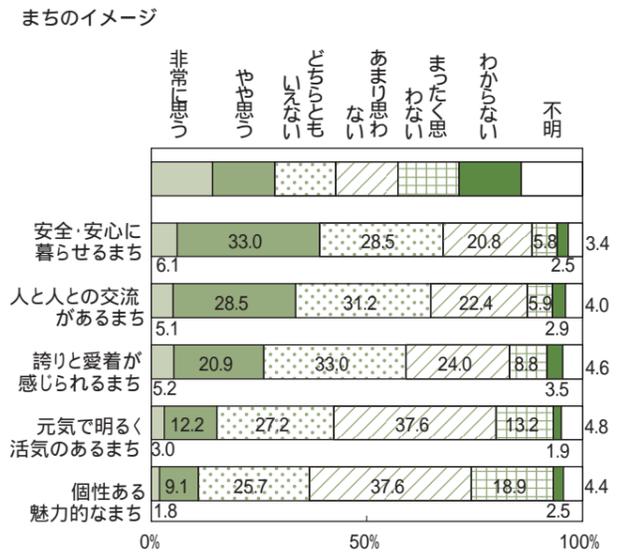
定住意向の理由

「住みたい」人の主な理由は、「郷土として愛着」や「自然環境」などが上げられています。一方、「住みたくない」人の主な理由としては、「交通の便」や「買い物利便性」が劣っていること、「教育環境」に恵まれていないことなどが上げられています。



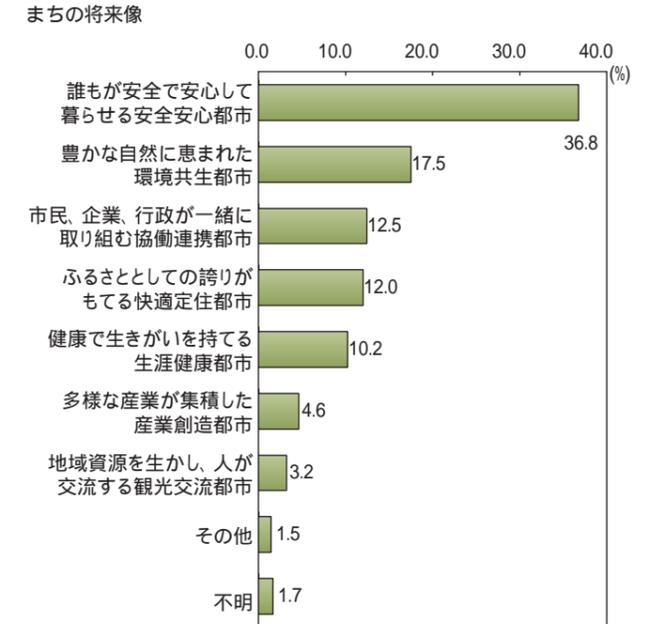
まちのイメージ

市民が抱く私たちのまちのイメージのうち、高い評価となった項目は「安全・安心に暮らせるまち」となっています。一方、「個性ある魅力的なまち」や「元気で明るく活気のあるまち」に対しては50%以上の人が「あまり思わない」、「まったく思わない」という低い評価をしています。



まちの将来像

市民が考える私たちのまちの将来像としては、まちのイメージと同様に「誰もが安全で安心して暮らせる安全安心都市」が最も高い割合となっており、まちの安全・安心を望んでいる人が多いことがうかがえます。次いで、「豊かな自然に恵まれた環境共生都市」となっています。



まちの重点施策

重点的に取り組んでほしい施策としては、「バス路線の拡充」、「公共下水道の整備」、「道路交通網の整備」など身近な生活環境に関する項目と、「高齢者福祉の充実」、「医療施設の充実」、「子育て支援の充実」などの医療・福祉に関する項目が上位を占めています。



上位10項目のみを記載しています。

## 第2節 宮若市の魅力

宮若市には、これまでに継承し、育んできた地域の魅力があります。これら地域の魅力を再認識し、今後のまちづくりに生かしていくことが重要です。

### ひと

宮若市では、市や企業が主催する祭りやイベント、昔から受け継がれてきた地区の伝統行事などが催され、地域が活気づくとともに、様々な人間関係を築いてきました。

一方、犬鳴川河川公園などの公園の管理や如来田地区の建築協定などのまちづくり活動をはじめ、福祉や教育などの多様な分野でボランティアが活発に活動しており、市民がまちづくりの新たな主体として地域を支えています。

また、犬鳴峠のふもとにある脇田温泉は、奈良時代からの歴史がある温泉郷で、若い人からお年寄りまで広く親しまれています。さらに、トヨタ自動車九州㈱の工場見学も年間5万人が訪れているなど、今後も交流人口の増加が見込まれます。



### みどり

三郡山系などの山々に抱かれた宮若市は、チャンチンモドキ(ウルシ科)が群落する北限に位置するなど、豊かな自然の恵みにあふれています。その山々を源とする犬鳴川や八木山川は、私たちの生活においしい水を与えてくれるとともに、いこいの里千石や犬鳴川河川公園などのレクリエーションの場を提供しています。また、河川沿いに広がる、のどかな田園風景は人々の心を癒してくれます。

さらに、6世紀後半につくられた国指定史跡竹原古墳をはじめ、霊験寺(釘抜地藏)、若宮八幡宮、清水寺などの多くの神社仏閣や、明治以降の石炭産業の歴史を伝える石炭記念館など、多彩で貴重な歴史文化遺産が保存されています。また、千石峡では、日本最大級のメガロザウルスの歯の化石が発見されるなど、太古の歴史にもふれられます。



交流人口  
通勤・通学をはじめ、買い物、観光、レジャーなど、さまざまな目的で、他地域から訪れる人口のこと。

### 産業

福岡と北九州という両政令指定都市の中間に位置する優位な地理的条件や、若宮インターチェンジの交通便利性などにより、これまでに多数の企業が進出してきました。

特に、近年の景気回復と福岡県が進めている「北部九州自動車150万台生産拠点」のもとでは、宮若市がその拠点の一翼を担う存在となり、地域の魅力として十分にアピールできます。

今後は、さらに新たな企業の誘致を進めるとともに、その従業員の定住化も大きな魅力として期待されます。

また、ドリームホープ若宮や四季菜館では、米はもちろん、自然の恵みを生かした四季折々の新鮮な野菜や果物、加工品などの特産品を多くの家庭に提供しています。また、特産品の中でもトルコキキョウなどは、関東などの市場に出荷されるほか、陶芸品は多彩で、地元の作家の窯も多数あります。特に幸運を招き悪運を払うという「追い出し猫」は愛らしい表情で人気があります。



### 第3節 宮若市の主要課題

宮若市の今後10年間のまちづくりの目標と基本的な施策を明らかにするため、時代の流れを的確に捉え、市の現状や魅力、市民意識などを踏まえた結果、総合的な取り組みを展開するための主要課題を以下のとおりとします。

#### 豊かな自然環境の保全

豊かな自然環境は将来に残すべき貴重な財産です。このため、河川の水質汚濁やゴミの不法投棄の防止などに努めるとともに、自然環境を保全し、山林や農地が有する水源の涵養や国土保全など多面的な環境保全機能を維持していくことが必要です。

リサイクルの徹底、一般家庭ゴミの抑制及び、省エネルギー対策など、自然環境に負荷を掛けない循環型社会の構築に取り組んでいくことが必要です。

#### 土地利用の調和

市域の大半を占める山林や農地などの自然的土地利用と、のどかな田園風景の保全に取り組む一方、市街地や集落の環境保全や改善を図ることが必要です。新たな住宅地や工業団地などの都市的土地利用の創出にあたっては、自然と共生し、調和のとれた土地利用を行うことが必要です。現在、都市計画区域に指定していない若宮地区では、無秩序な開発が懸念されることから、今後は、自然、農業環境に配慮した土地利用の誘導に取り組むことが必要です。

遊休地化した炭鉱跡地は、土地資源として、工業団地や宅地、多目的広場などとして有効な活用を図ることが必要です。

#### 魅力ある居住環境の創出

現在、自動車関連企業の立地が進んでいる反面、従業員の定住が進んでいない状況となっています。今後は、従業員などの定住を促進するため、恵まれた自然環境のもとで民間活力による住宅団地の開発を誘導するとともに、下水道や公園などの身近な生活環境の整備を図り、教育や福祉の充実した、魅力ある居住環境の形成を図ることが必要です。

また、子どもから高齢者、障害者などの交通弱者まで誰もが、安全・快適に移動できるよう、交通機関の充実、歩道の整備、バリアフリー化などに取り組むことが必要です。さらに、多様な産業の集積や地域間交流の拡大を図るため、広域的な道路交通網や幹線道路の整備が必要です。

#### 防災・防犯のまちづくり

近年多発している地震・大雨などの自然災害や、凶悪化・低年齢化などが指摘され増加する犯罪などから市民の生命と生活を守るため、安全・安心な地域社会を形成することが必要です。

このため、自然災害や火災などに対する防災体制の確立を図るとともに、避難基準の設定や避難場所の選定と自然環境の保全による災害の未然防止等に取り組むことが必要です。また、消火活動には、消防署と地域の消防団の連携が必要ですが、消防団の高齢化が進んでおり、団員の確保など組織の強化に取り組むことが必要です。

さらに、犯罪や青少年の非行の要因の一つとして、地域社会の連帯感の希薄化が考えられることから、自治会などの地域が主体となった防犯体制の確立を図ることが必要です。

#### 地域の発展を支える産業振興

地域の発展を支えるためには、農業と商工業のバランスのとれた産業の構築が必要です。

自動車関連企業の立地が進んでいる中、今後も企業誘致に努めるとともに、地元商工業の振興と新たな地場産業の育成を図り、さらなる企業の集積を図ることが必要です。

また、産業としての農林業の確立を維持していくためには、経営基盤の強化や後継者の育成・確保、地域特産品のブランド化などを行うことが必要です。

さらに、地産地消や農業体験など多様な農林業のあり方にも取り組むことが必要です。また、交流人口の増加を図るため、温泉や文化財、農村風景など、地域資源を活かした観光産業の振興を図ることも必要です。

#### 教育環境と生涯学習環境の充実

社会の変化を踏まえ、子どもたちに必要な「生きる力」を養うため、保護者のニーズに対応しながら、幼児教育環境の整備や子育て環境の整備など、幼児期からの教育・保育に取り組むことが必要です。

また、小中学校の児童・生徒数が減少し、割の小学校で全学年クラスとなっていることや一部の学年で複式学級が実施されていることなどから、学校の統廃合及び小中一貫校など学校の再編に取り組み、望ましい児童・生徒数で学校教育を行うことが必要です。さらに、家庭、学校、地域がそれぞれの役割を担い、連携し、豊かな人間性や社会性を育む教育環境の充実に取り組むことが必要です。

生きがいのある生活を営むため、文化活動やスポーツ活動など、生涯を通しての学習の機会や場を設けるとともに、地域でともに支え合い、お互いに尊重できるような人づくりを進めていくことが必要です。

#### 保健・福祉環境の充実

少子高齢社会の中で、一人でも多くの子どもを安心して産み、育てることができる環境や高齢者や障害者などが安全で安心して暮らせる環境を実現するため、家庭、地域、社会全体で支える仕組みを形成することが必要です。

また、子どもから高齢者まで誰もが、健康でいつまでも生きがいをもって、生活できるように保健・福祉・医療の充実を図ることが必要です。

#### 協働のまちづくりと地域コミュニティの確立

地方分権や多様化する住民ニーズに対応するため、市民、NPO、企業などとの協働を図り、多様な主体が積極的に参加するまちづくりに取り組むことが必要です。

市民やボランティア団体などが、まちづくりに積極的に参加できるような仕組みをつくるとともに、主体的にまちづくりを行うための支援体制の確立が必要です。

さらに、地域コミュニティの確立を図り、子育てや介護、防災・防犯対策など、地域が主体となってまちづくりに取り組むことが必要です。このため、地域と行政が役割分担のもと、連携、協力してまちづくりに取り組むことが必要です。

#### 行財政改革の実現

非常に厳しい財政状況の中で、多様化、高度化する住民ニーズに対応するため、私たちのまちが、自立自足できるだけの自主財源の確保を図るとともに、まちの特性や課題を踏まえた事務事業の見直しなど、効果的な財政運営を行うことが必要です。

また、地方分権時代の中で、行政組織のスリム化や行政サービスの効率化などを行うとともに、職員の意識改革や政策形成能力の向上を図るなど、効果的な行政運営を行うことが必要です。

都市計画区域  
健康で文化的な都市生活と機能的な都市活動を確保するという都市計画の基本理念を達成するために、都市計画法や関連する法令の適用がなされる区域。

バリアフリー  
高齢者や障害者が自立して生活するうえで行動の妨げとなる障壁を取り除くこと。なお、物理的障壁だけでなく、偏見など人と人を隔てる障壁まで含めることもある。

交流人口  
通勤・通学をはじめ、買い物、観光、レジャーなど、さまざまな目的で、他地域から訪れる人口のこと。

複式学級  
学年1クラスでなく、2年以上の児童・生徒が1クラスで一緒に授業を受ける方式のこと。

NPO  
ボランティア団体や市民活動団体などの特定非営利活動団体、基本的に営利を目的とせず、社会的な使命（ミッション）の実現を目指して継続的かつ自発的に社会貢献活動を行う団体の総称。